

シルバー産業新聞

シルバー産業新聞 1年(令和)

CONTENTS=Vol.291=

- 6** 厚労省・樽見事務次官インタビュー
「本人の能力を上げるため、最も良い介護サービスの提供方法を考え取り組むことを、いま一度思い起こし、『利用者の生活の質を上げるためにはどのようなサービスが必要か』を考えながら、取組んでいただきたい」
- 2** 日福協・小野木理事長に聞く
- 4** ケアマネジャーの地域支援に報酬を
- 7** ~ **10** 各サービス改定の概要
- 18** 新連載「地域共生社会に向けた実践」
- 22** PCRで15人陽性も早期対応で収束
- 2** ビジネス **4** ケアマネ **5** アンケート **16** ワードケア
- 17** CM試験 **18** データ **19** 好評連載 **21** 注目商品

地域資源づくりりに尽力

会 優 会
事 業 部
居 宅 奉 居

がん患者交流会、多世代料理教室など



佐々木克祥事業部長

社会福祉法人奉優会（東京都世田谷区、香取眞恵子理事長）の居宅事業部では、ケアマネジャーによる地域資源開

発に積極的に取り組んでいる。同事業部では居宅介護支援事業所が「利用者と地域をつなぐシームレスな支援拠点としての確立」を目指してきた。

佐々木克祥事業部長は「ケアマネジャーの役割を大きく2つに分ける

と、個別援助と地域援助だ。利用者を本場に地域で支えていくためには、地域援助や資源開発に取組む必要がある」と強調する。

同法人が運営する居宅介護支援事業所は6カ所。これまで、▽がん末期患者のための交流会▽高齢者やシングルマザー

等も通う多世代料理教室▽ケアマネジャーをつなぐ地域カフェ▽世代間交流カフェーなどに取り組んできた。

がん末期患者のための交流会「やすらぎサロン」について佐々木氏は、「利用者本人の内心を探るマネジメントを大切にしている。援助を続けるうちに、地域課題（共通の理解不足が目に入るようになり他

法人と共同開催した」と説明する。

地域の医療機関と連携

して、最新の緩和ケアなどの勉強会の他、専門職種への相談などが行える。

佐々木氏は「気軽に医師に相談できる環境や、患者同士が気持ちを共有できる場は多くない。今は医療機関とも連携し1地域4~5カ所で開催できるような地域支援の輪を広げていきたい」と話す。

「現在行っている地域援助活動は、ほとんど職員の善意によるもので、取組めば取組むほど経営上の負担が多くなる。介護報酬上で何かしらの評価が必要だ」と指摘する。

「黒字でも利益幅は大きくない。ケアプラン作成以外の取組みも行ってはいるが、プラスにはならない」（佐々木氏）。

収入を補填する取組みとして▽福祉大学・専門学校、医学部からの実習

報酬上で評価を

同法人が運営する「等々力の家居宅介護支援事業所」の10月期の収益は10万6000円増だった。

「黒字でも利益幅は大きくない。ケアプラン作成以外の取組みも行ってはいるが、プラスにはならない」（佐々木氏）。

収入を補填する取組みとして▽福祉大学・専門学校、医学部からの実習

生の受け入れ▽認定調査▽介護予防プランの作成——などに取組んでいる。

同事業所が取組みを強化している地域援助活動は、主任ケアマネジャーは、主任ケアマネジャー研修のカリキュラムにも役割として位置づけられており、取組みが求められているが、現在報酬による評価がない。

「現在行っている地域援助活動は、ほとんど職員の善意によるもので、取組めば取組むほど経営上の負担が多くなる。介護報酬上で何かしらの評価が必要だ」と指摘する。

佐々木氏は「地域援助活動は地域全体のマネジメント及び地域包括ケアシステムの構築に向けて利用者、地域サービスを把握しているケアマネジャーこそ活躍できる事業だと思っている。当法人としては、今後も取組みを強化して、利用者が地域でより豊かに暮らせる環境づくりを目指していきたい」と強調する。